
バレット(bullet)

天青石

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バレット(bullet)

【NZコード】

N4913D

【作者名】

天青石

【あらすじ】

見てのお楽しみです。と思つたけどこれだけじゃ30文字以上にならないので、せっかくだから作品の紹介をします。これは作者の偏った知識と適当な構成、貧弱な想像力と誤った文法からなる常識無視系ガンアクション要素の入ったファンタジー物語です。あまり訳の分からぬ展開が好きでない方は、読まない方がいいかもしれません。以上！

Hペローグ 夜の闇に

「ハツ！当たらないね！」

薄暗くて広い空間に男の声が響いた。

声の主は驚くほど身軽で地を駆け、飛び、陰に逃げ込み、そしてその動いた軌道を追うように、銃弾の風が駆け抜けていく。

「無駄弾、は、なあツ！」

回避行動を続けながら、その男は懐から何かを取り出した。

銀色に光る長いバレルと複数の薬室を持つ、回転式拳銃。つまりリボルバータイプの銃だ。

「致命的なんだぜ！」

彼は右手にしつかりとそれを握った状態で叫びながら物陰を飛び出し、

銃弾の飛んでくる方向に銃口を向けた。同時に数発発砲する。

パシュ、パシュ、パシュ、と軽い発砲音が響き、発射された銃弾が正確に目標を撃ち抜いた。

撃つた先から「ぐあつ！」「うぐつ！」「はぐあ！」と、三種類の悲鳴が上がる。

「ちくしょう！」「くそつ！あの野郎ツ！」

撃たれた人たちの仲間がそう叫んだ。数はざつと10人ほどで、全員スーツを着込んでいる。

今度はスーツ姿の連中側が、相手が撃つてきた方向に銃を連射する。

しかし男はもうすでに隠れた後で、銃弾はむなしくコンクリートの壁をノックした。

「へタな奴らだ。そんな腕でこの俺を相手にするのか？」

男はそう咳きつつ素早く次弾を装填し、弾倉を銃身へと戻した。そして敵の無駄弾撃ちが終わつたのを確認すると、思いつきりジャンプして

物影の上から上半身だけを覗かせ、一瞬で狙いを定めて連射する。

銃弾は再びスース姿の連中を捉えた。悲鳴が上がつたかと思えば、直後に反撃が来る。

その攻撃が自分に届く前に、男はすでに自由落下によつて物影に戻つていた。

6発装填のうちの5発を消費したので、またも素早く再装填を済ます。

そして「オレの弾丸は特殊だからな。無駄撃ちできなくて困るぜ」と呟いた。

11人いたスース姿の一団は、3人だけを残して全員倒されてしまつた。

残つた3人はサブマシンガンを構え、互いに背中を寄せ合つよつて構えている。

「なんて化物だ…人間の動きじゃねえよ…」

「全くだ。逃げ出したい気分だよ…」

「どこだ…どこから来るんだ…」

3人で全方位を警戒しつつ、いつでも撃てるように銃を構える。

次の瞬間、突然銃声が鳴り響き、さらに3人中の2人が地にひれ伏

した。

全方位に警戒しているとはいっても、どこから来るか分からない上に音も予備動作もなしで突発的に撃つてくるのだ。回避できるはずもない。

スース姿の男は一人残され、茫然と立ち尽くしていた。そこに男から声がかかる。

「その機関銃を下ろしてくれないか？俺は向かつてくる者しか撃たないからな。身の安全は保障する。ついでに、弾も提供してくれる」とありがたいが」

男の声は平坦で事務的な口調の中に、どこか楽しんでいるような響きを持つていた。

スース姿の男はその声を聞いて抵抗は無駄だと悟り、観念したように得物を投げ捨てる。

それを視認すると、声の主は闇の中から音もなく姿を現した。

声の主は、なんと少年だった。

見た目は16・7歳ほどで、黒髪黒眼の細身の体。

全身を暗闇に溶け込むような黒い服装で覆っていて、暗所を想定でもしているのか、

薄暗い中では手に持った銃と、仮面の下から覗く顔以外は殆ど見えなくなっている。

少年は最後残ったスース姿の男のすぐ傍に立ち、無表情で彼を見下ろしていた。

「……………！」

スース姿の男は、複雑な感情が入り混じった表情で少年を見つめ返していた。

宿るのは敗北の悔しさ、仲間をやられた悲しみと怒り、命が助かってという安堵と喜び。

そして、田の前にいるような少年に自分たちが倒されたという驚愕と喪失感だ。

少年はそんな男の表情を見て感情を読み取ったのか、こう言い放つた。

「心配するな。別に奴らの命は奪つてない。多分だが、ケガもないはずだ」

スーツ姿の男はさりに信じられない、といった表情で少年を凝視する。

「まさか、お前は……まさか……”鉄槌”の物か！？」

少年はその問いには何も答えないで、ゆっくりと銀色の銃を持ち上げ銃口を男に向けた。

「さあな。とにかく、オレの勝ちだ。組織と、あと銃弾は貰つて行くぜ」

目が覚めたら、あんたんとのボスによるじくな、とだけ言つたところで、

男が何らかの反応を示すより前に、少年の銃が火を吹いた。

弾丸は男の首を捉えた。しかし、男の首は銃弾が命中したにもかかわらず、

傷もできなければ血も出なかつた。男はそのことに驚いたが、その感情はすぐに消えた。

猛烈な勢いで意識が奪われて行つて、気を失わされたからである。

少年は全弾撃ち切つた拳銃を懐にしまつと、出口に向かつて歩き出した。

地面に落ちていたサブマシンガンから弾を抜き取り、それも懷に入れた。

少年は足早に戦っていた「海岸沿いの大倉庫」から抜け出し、颯爽と夜の闇の中に消える。

「さてと、これから忙しくなりそうだな

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4913d/>

バレット(bullet)

2010年10月16日00時34分発行